

(3) 授業の質的改善のプロセス

2 (2) 授業の見直しと質的改善を図るための手立てで示した方法に沿って、実際に授業の質的改善に取り組んだプロセスを紹介します。

ア A校の授業改善のプロセス

実践 1
「6月」

単 元 名：段落の役割に注目して説明文を読み、

『今と昔の〇〇のちがい』について説明文を書こう

教 材 名：オオカミを見る目（東京書籍 1 年）

単元の目標：①段落の役割や段落どうしの関係に着目して文章の構成を捉え、内容を読み取ることができる。

②段落の役割を考えて、説明文を書くことができる。

■生徒の実態を把握する。

「生徒の姿チェックシート」で、過半数の生徒ができていると思われる項目にチェックを付けた。チェックが付かなかった項目は、以下の通りである。

主に 主体的な学び	… イ , ウ
主に 対話的な学び	… オ , カ
主に 深い学び	… キ , ク , ケ , コ



■指導事項（身に付けさせたい力）を明確にする。

生徒の実態を踏まえ、以下の指導事項を指導することにした。

〔C読むこと〕

イ 文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。

〔B書くこと〕

イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。

■教材を分析する。

この教材は、指示語や接続の表現が的確に用いられていて、「問い」「答え」「筆者の主張」という、分かりやすい論理展開になっている。そのため、段落の役割や段落どうしの関係に着目して、文章の構成を学ぶのにふさわしい教材である。また、学んだ文章構成は、生徒自身が文章を書くときに生かすことができるようにしたい。授業前に実施した実態調査アンケートの結果から、生徒が「書くこと」に対する苦手意識をもっていることも分かったので、この単元では、学んだ文章構成を生かして書く活動を取り入れてはどうかと考えた。

①
つかむ

②
構想する

■適切な言語活動を設定する。

教材文の学習を通して学んだ文章の構成を、自分自身が文章を書くときに活用することができるようにするために、「昔と今の〇〇のちがい」というテーマで、説明文を書く活動を設定した。

■単元全体や 1 単位時間の指導計画を立てる。

①つかむ の段階で使用した「生徒の姿チェックシート」でチェックが付かなかった項目を基に、本単元で改善を目指す生徒の姿を決定した。そして、単元の指導計画を立てる中で、取り入れることができそうな手立てについて考えた。

	本単元で改善を目指す 生徒の姿	「手立てシート」に示された手立てを 基にして考えた手立て
主に 主体的な学び	ウ 学習を振り返り、 自分が学んだことを 理解している。	A⑩「段落の役割にどのようなものがある か理解している」「文頭や文末に注目し て段落の役割を見分けることができ る」など、振り返りの視点を示すこと で、自分の学びのよさや課題に気付く ことができるようにする。
		A⑪単元の学習を通して、どのような力が 身に付いたか振り返る場を設定する。
主に 対話的な学び	オ 対話を通して多様 な考えを得て、自ら の考えを広げている。	B⑦知識構成型ジグソー法(東京大学 CoREF が開発した学習法。以下「ジグソー法」 という)を取り入れて、対話を行わせる。
		B⑧ジグソー法のそれぞれの活動に入る前 に、自分自身の考えをもつための時間 を確保する。
主に 深い学び	ク 学習の中で得た情 報を精査し、自らの 考えを形成してい る。	B⑫ジグソー法のそれぞれの活動の中で、 互いの考えを比較させることで、自分 の考えを確かなものにすることができ るようにする。

※記号ア～コは、「生徒の姿チェックシート」の記号に、A①～C⑮は、「手立てシート」の記号に対応している。

③ 実践する

指導計画（全 8 時間）

※本単元で目指した「生徒の望ましい姿」に対する手立て…

次	時間	学 習 活 動	手 立 て
一	1	○学習の見通しをもつ。 ○教材文を読む。 ○9つの段落の役割を知る。	
	3	○教材文以外の4つの説明文を提示し、誰がどの説明文を担当するか、グループ内で担当を決める。 ○担当する説明文の段落の役割について個人で考え、エキスパート活動で確認し合い、文頭文末の言葉の特徴を抜き出す。	B⑦ ジグソー法を取り入れて、対話を行わせる。 B⑧ ジグソー法のそれぞれの活動に入る前に、自分自身の考えをもつための時間を確保する。
	4	○ジグソー活動を行い、4つの説明文に使われている段落の役割について、共有する。 ○4つの説明文の段落の役割を示す文頭文末の言葉を出し合って、語録集をつくり、次時に説明文を書く時の参考資料にする。	B⑧ ジグソー法のそれぞれの活動に入る前に、自分自身の考えをもつための時間を確保する。
	5	○「昔と今の〇〇のちがい」をテーマに、9つの題材から興味のあるものを選び、段落メモをつくる。	
	6	○600字で説明文を書く。	
	7	○4人グループで、互いの説明文を読み合い、使われている段落の役割を見付け、評価し合う。	B⑫ ジグソー法のそれぞれの活動の中で、互いの考えを比較させることで、自分の考えを確かなものにすることができるようにする。
三	8	○身に付いた力を振り返る。	A⑯ 振り返りの視点を示すことで、自分の学びのよさや課題に気付くことができるようにする。 A⑰ 単元の学習を通して、どのような力が身に付いたか振り返る場を設定する。

④ 振り返る

■生徒の変容と指導との関連を考える。

本単元で目指した生徒の姿（記号ウ、オ、ク）を実現することができたかどうか、実践を通して見られた生徒の様子について、振り返りを行った。（○成果、●課題）

主に 主体的な学び ウ 学習を振り返り、自分が学んだことを理解している。

A⑩「段落の役割にどのようなものがあるか理解している」「文頭や文末に注目して段落の役割を見分けることができる」など、振り返りの視点を示すことで、自分の学びのよさや課題に気付くことができるようにする。

○本単元で身に付けさせたい力を、振り返りの視点として示したことで、生徒は同じ視点で学びを振り返ることができた。

A⑪単元の学習を通して、どのような力が身に付いたか振り返る場を設定する。

○単元の学習の終わりの時間に、単元を通して身に付いた力について振り返る時間を設定したことで、生徒が、本単元でどのような力が付いたのかを理解することにつながった。また、身に付いた力をどのような場面で生かすことができるかについて記述する欄を設けたところ、実生活や他教科の学習における活用場面を挙げている生徒が多く見られ、「主に 深い学び」でチェックが付かなかった「コ 自分が学んだことを、日常生活や社会生活、他教科の学習につなげている」という生徒の姿の達成につながった。今後も、この手立てを取り入れ、「深い学び」を実現していきたい。

主に 対話的な学び オ 対話を通して多様な考えを得て、自らの考えを広げている。

B⑦ジグソー法を取り入れて、対話を行わせる。

○ジグソー法を取り入れたことで、グループ内で対話をする必然性が生まれ、積極的に学習活動に取り組むことができた。また、エキスパート活動において他者と対話を行ったことで、自らの考えを広げる機会になった。

B⑧ジグソー法のそれぞれの活動に入る前に、自分自身の考えをもつための時間を確保する。

○エキスパート活動、ジグソー活動のそれぞれの活動において自分の考えを述べるために、一人一人がじっくり課題に向き合い、自分の考えを形成することができた。

主に 深い学び ク 学習の中で得た情報を精査し、自らの考えを形成している。

B⑫ジグソー法のそれぞれの活動の中で、互いの考えを比較させることで、自分の考えを確かなものにすることができるようにする。

●ジグソー法の活動において、互いの考えを比較し検討した上で、自分の考えを形成するよう促した。しかし、互いの考えを十分検討しないまま、他者の考えを自分の考えとしてしまう生徒もいた。何のための対話なのか、目的をはっきり理解させた上で対話をさせることが必要だったと思う。

実践 2
「9 月」

単 元 名：古文の世界を楽しもう

教 材 名：伊曾保物語（東京書籍 1 年），伊曾保物語（岩波文庫）

単元の目標：①現代仮名遣いに直して，古文を読むことができる。

②古文を読んで，内容を理解することができる。

■生徒の実態を把握する。

「生徒の姿チェックシート」で，過半数の生徒ができていると思われる項目にチェックを付けた。チェックが付かなかった項目は，以下の通りである。

主に 主体的な学び	…	イ
主に 対話的な学び	…	カ
主に 深い学び	…	キ ， ケ



■指導事項（身に付けさせたい力）を明確にする。

生徒の実態を踏まえ，以下の指導事項を指導することにした。

〔伝国〕

(1) ア(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り，古文や漢文を音読して，古典特有のリズムを味わいながら，古典の世界に触れること。

〔C 読むこと〕

ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み，内容の理解に役立てること。

■教材を分析する。

「伊曾保物語」は，欧米で広く親しまれている「イソップ物語」の翻訳本で，近世初期に多く読まれた作品である。現代においても「イソップ物語」の絵本が出版されており，生徒にもなじみがある。また，動物を主人公とした話が多く，「いつ，誰が，どこで，どうなった」という展開が理解しやすいため，生徒が楽しんで取り組める作品である。この作品が，中学校で初めて学習する古典教材になるので，文語のきまりを知り，古文の読み方に慣れさせることが重要である。また，古文中の語句をヒントにして，ある程度の内容を読み取ることができるようにしたいと考えた。

①
つかむ

② 構想する

■適切な言語活動を設定する。

古文の読み方に慣れさせることが重点指導事項となるが、音読の練習をするだけでは、生徒の意欲が続かない可能性がある。また、話のおおまかな内容をつかむ力も付けさせたいと考えたので、教科書に掲載されていない「伊曾保物語」の他の話を用いて、クイズ大会を開くという言語活動を設定した。

■単元全体や 1 単位時間の指導計画を立てる。

①つかむ の段階で使用した「生徒の姿チェックシート」でチェックが付かなかった項目を基に、本単元で改善を目指す生徒の姿を考えた。「対話的な学び」でチェックが付かなかったのは「カ 対話を通して多様な考えを得て、自らの考えを深めている」の項目だったが、本単元の学習過程の中で、対話を通して考えを深める場面を設定することが難しかった。また、本単元は中学校に入って初めて学習する古典教材であり、一人で取り組むのが難しい生徒もいると考え、ペア学習を取り入れることにした。そこで、「対話的な学び」に関しては、「エ ペア学習や話し合い活動に、意欲をもって参加している」に関する手立てを取り入れることにした。

	本単元で改善を目指す生徒の姿	「手立てシート」に示された手立てを基にして考えた手立て
主に主体的な学び	イ 自分の考えをもって、粘り強く学習に取り組もうとしている。	A⑩教師が用意した古文を提示し、どの古文を音読するか、発表順をどうするか等について、ペアで話し合っ決めて場を設ける。
主に対話的な学び	エ ペア学習や話し合い活動に、意欲をもって参加している。	B①クイズとして採用する古文の音読をペアで担当させることで、話し合う必然性をもたせる。
主に深い学び	ケ 学んだ知識を相互に関連付けて、より深く理解している。	C⑥教科書教材で学んだ歴史的仮名遣いを、他の古文を読む際にも活用できるように、現代仮名遣いに直すためのポイントをまとめたワークシートを準備し、ファイリングさせる。

※記号ア～コは、「生徒の姿チェックシート」の記号に、A①～C⑮は、「手立てシート」の記号に対応している。

指導計画（全 4 時間）

※本単元で目指した「生徒の望ましい姿」に対する手立て…



③ 実践する

次	時間	学 習 活 動	手 立 て
一	1	○学習の見通しをもつ。 ○現代仮名遣いに直すポイント 3 つを知る。	
二	2	○教科書「犬と肉のこと」「鳩と蟻のこと」を現代仮名遣いに直して読む。	
	3	○担当する古文を決定する。 ○ペアで担当する古文を現代仮名遣いに直す。 ○ペアでどこを読むか担当箇所を決め、音読の練習をする。	A ⑩ 教師が用意した古文を提示し、どの古文を音読するか、発表順をどうするか等について、ペアで話し合って決める場を設ける。 C ⑥ 教科書教材で学んだ歴史的仮名遣いを、他の古文を読む際にも活用できるように、現代仮名遣いに直すためのポイントをまとめたワークシートを準備し、ファイリングさせる。 B ① クイズとして採用する古文の音読をペアで担当させることで、話し合う必然性をもたせる。
	4	○12 話の音読を聞いて、あらすじ当てクイズに挑戦する。 ○単元の学習を振り返る。	

④ 振り返る

■生徒の変容と指導との関連を考える。

本単元で目指した生徒の姿（記号イ、エ、ケ）を実現することができたかどうか、実践を通して見られた生徒の様子について、振り返りを行った。（○成果、●課題）

主に 主体的な学び イ 自分の考えをもって、粘り強く学習に取り組もうとしている。

A⑩教師が用意した古文を提示し、どの古文を音読するか、発表順をどうするか等について、ペアで話し合って決める場を設ける。

○クイズに採用する古文を提示し、ペアで話し合って選ばせた。また、発表順もペアで話し合って決めさせる等、自分たちで選択する課題を設定したことで、意欲的に音読に取り組む姿が見られた。

主に 対話的な学び エ ペア学習や話し合い活動に、意欲をもって参加している。

B①クイズとして採用する古文の音読をペアで担当させることで、話し合う必然性をもたせる。

○ペアで読む課題は、難しい読みには教師が読み仮名をつけ、取り組みやすいように工夫した。また、あらすじを付け、発表する内容を理解して臨めるようにした。そのような準備をした上で、読む担当や読み方等、ペアで話し合って音読に取り組ませたことで、読むことが苦手な生徒もしっかり取り組むことができた。グループだと、他のメンバーに活動を任せてしまう生徒もいるが、話し合う必然性をもたせてペアで活動させたことで、意欲的な活動につながった。

●三人以上のグループであっても、全員が責任をもって取り組むことができるような課題設定をする必要がある。

主に 深い学び ケ 学んだ知識を相互に関連付けて、より深く理解している。

C⑥教科書教材で学んだ歴史的仮名遣いを、他の古文を読む際にも活用できるように、現代仮名遣いに直すためのポイントをまとめたワークシートを準備し、ファイリングさせる。

○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直させる際、生徒はワークシートを参考にしながら、ペアで協力して学習に取り組んでいた。今回は、現代仮名遣いに直すためのポイントをまとめたものだったので、他教科の学習に生かすことはできないが、知識及び技能をまとめたものをファイリングさせておくことは、知識及び技能の活用に役立つと感じた。

実践 3
「11月」

単 元 名：小説を読んで、心情を説明しよう～心の機微を日記に書こう～

教 材 名：少年の日の思い出（東京書籍 1 年）

単元の目標：①作品中に使われている描写に注目して、作品を読み味わおうとする。

②場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、登場人物の心情理解に役立てることができる。

③視点人物を変えて、心が揺れ動く様子を読み取り、文脈上の意味に注意して、語感を磨くことができる。

■生徒の実態を把握する。

「生徒の姿チェックシート」で、過半数の生徒ができていると思われる項目にチェックを付けた。チェックが付かなかった項目は、以下の通りである。

主に 主体的な学び	… イ
主に 対話的な学び	… カ
主に 深い学び	… キ , ケ



■指導事項（身に付けさせたい力）を明確にする。

生徒の実態を踏まえ、以下の指導事項を指導することにした。

〔C 読むこと〕

ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。

〔伝国〕

(1) イ (イ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くこと。

■教材を分析する。

ヘルマン・ヘッセの「少年の日の思い出」は、教科書が改訂されても変わらず掲載され続けている普遍的な作品である。「私」と「客」のやり取りを中心とした現在の場面と、「客」が「僕」という語り手となって自分が犯した過去の過ちを語る回想の場面で構成されている。過去の場面での「僕」は、生徒と同じ世代であり、夢中になっているものに対する胸高鳴る感動や、どうしても手に入れたという欲望、欲望に負けて盗みを犯してしまった後の後悔などに共感しながら、読み進めることができる教材である。また、「僕」が盗みを働くまでの心情の変化が詳述されており、描写に注目して人物の心情を読み取る中で、心情を表す語彙についての語感を磨くことができると考えた。

①
つかむ

②
構想する

■適切な言語活動を設定する。

描写に注目して人物の心情を読み取ること、心情を表す語彙についての語感を磨くことが指導事項になるので、描写に注目して読み取った登場人物の心情を、適切な語彙で表現する活動を取り入れたいと考えた。そこで、「僕」が盗みを告白した場面を中心に、「エーミール」の視点に立って日記を書くという言語活動を設定した。

■単元全体や1単位時間の指導計画を立てる。

①つかむ の段階で使用した「生徒の姿チェックシート」でチェックが付かなかった項目を基に、本単元で改善を目指す生徒の姿を決定した。そして、単元の指導計画を立てる中で、取り入れることができそうな手立てを考えた。「対話的な学び」については、6月の実践で取り入れたジグソー法が考えを広げる活動として有効だったので、再度、ジグソー法を取り入れ、広げた考えを深めることができるようにしたいと考えた。「深い学び」については、9月の単元で、知識及び技能をまとめたワークシートをファイリングさせたが、この手立ては、生徒自身が知識及び技能を活用する際に役立つと感じたので、今回の単元でも取り入れたいと考えた。

	本単元で改善を目指す生徒の姿	「手立てシート」に示された手立てを基にして考えた手立て
主に主体的な学び	イ 自分の考えをもって、粘り強く学習に取り組もうとしている。	A⑫考えを可視化することができるように、ワークシートを工夫する。
主に対話的な学び	カ 対話を通して多様な考えを得て、自らの考えを深めている。	B⑫グループ学習で考えを交流し、自他の考えの共通点や相違点を比較させ、考えを深めることができるようにする。
主に深い学び	ケ 学んだ知識を相互に関連付けて、より深く理解している。	C⑥心情を表す様々な語彙を整理させ、ファイリングして活用させる。

※記号ア～コは、「生徒の姿チェックシート」の記号に、A①～C⑮は、「手立てシート」の記号に対応している。

指導計画（全 8 時間）

※本単元で目指した「生徒の望ましい姿」に対する手立て…



③ 実践する

次	時間	学 習 活 動	手 立 て
一	1	○学習の見通しをもつ。 ○心情を整理するための語彙マップを作る。	C⑥ 心情を表す様々な語彙を整理させ、ファイリングして活用させる。
	2	○教師が作成した、「大造じいさんとがん」のリライトモデルを読んで、学習の見通しをもつ。	
二	3	○教材文の範読を聞き、あらすじをつかむ。	
	4	○過去の場面の前半部分から「エーミール」の人物像を捉える。 ○エキスパート活動とジグソー活動に取り組み、読みを深める。	B⑫ グループ学習で考えを交流し、自他の考えの共通点や相違点を比較させ、考えを深めることができるようにする。
	5	○過去の場面の後半部分から「エーミール」の人物像を捉える。 ○エキスパート活動とジグソー活動に取り組み、読みを深める。	B⑫ グループ学習で考えを交流し、自他の考えの共通点や相違点を比較させ、考えを深めることができるようにする。
	6	○過去の場面の後半部分での「エーミール」の心情と、その心情を説明するキーワードを考える。 ○「エーミール」の心情についての自分の考えを、友達に説明する。 ○友達の説明を聞き、心情を追加したり修正したりする。	A⑫ 考えを可視化できるように、ワークシートを工夫する。 C⑥ 心情を表す様々な語彙を整理させ、ファイリングして活用させる。 B⑫ グループ学習で考えを交流し、自他の考えの共通点や相違点を比較させ、考えを深めることができるようにする。
三	7	○「エーミール」の視点で、日記を書く。	
	8	○リライト作品（日記）を読み合い、感想を伝え合う。 ○単元の学習を振り返る。	

④ 振り返る

■生徒の変容と指導との関連を考える。

本単元で目指した生徒の姿（記号イ、カ、ケ）を実現することができたかどうか、実践を通して見られた生徒の様子について、振り返りを行った。（○成果、●課題）

主に 主体的な学び イ 自分の考えをもって、粘り強く学習に取り組もうとしている。

A⑫考えを可視化することができるように、ワークシートを工夫する。

○1つのワークシート内に、教材文と考えを書く欄を設け、自分の考えを整理することができるように工夫した。また、ジグソー法を行った前後での自分の考えの変化も分かるように工夫した。生徒は、ワークシートに自分の考えを整理しながら、考えの変化も捉えることができた。

●グループ学習の際、文章からどのようなことを読み取ったのか、自分の言葉で説明する力が不足していた。これは、読み取った内容をまとめる力が十分ではなかったためだと思われる。毎時間の学習内容をまとめる欄をワークシートに設ける等の手立てをとっておくべきだったと思う。

主に 対話的な学び カ 対話を通して多様な考えを得て、自らの考えを深めている。

B⑫グループ学習で考えを交流し、自他の考えの共通点や相違点を比較させ、考えを深めることができるようにする。

●グループで対話を行う際に、自他の考えの共通点や相違点を比較させるようにした。生徒は、自他の考えを区別して考えることはできたが、対話の時間が十分取れなかったため、他者の意見に対する自分の考えを述べるに至らなかった。対話を通して考えを深めるためには、時間を確保することも必要だと感じた。

主に 深い学び ケ 学んだ知識を相互に関連付けて、より深く理解している。

C⑥心情を表す様々な語彙を整理させ、ファイリングして活用させる。

○導入部分で作成した「心情を表す語彙マップ」をファイリングさせ、リライト活動の際に活用させた。生徒は、ワークシートを何度も見直し、最適な言葉を選ぼうと努めていた。他の学習にも生かせる知識及び技能をまとめたワークシートは、

① ④ 繰り返す

A校の「授業の質的改善のプロセス」の紹介はここまでですが、次の単元以降も

①つかむ → ②構想する → ③実践する → ④振り返る

の手順を繰り返して、授業の質的改善が行われています。



授業の質的改善に取り組まれた A 先生のコメントをご紹介します。

「主体的な学び」「対話的な学び」を実現するために、学習活動の中に対話を取り入れてきました。その中の一つとして、ジグソー法を取り入れましたが、実践を通してその有効性を実感することができました。

また、既習事項の復習のために小学校教材を使うようになり、中学校での指導内容を厳選して、学習課題を設定するという意識が高まりました。

「小説」の授業は苦手でしたが、指導の焦点化（心情の読み取り）やリライトなどの新しい言語活動を取り入れたことで、生徒の振り返りの中にも身に付いた力を実感する記述が見られ、効果を感じることができました。

